

人権教育における育てたい資質・能力

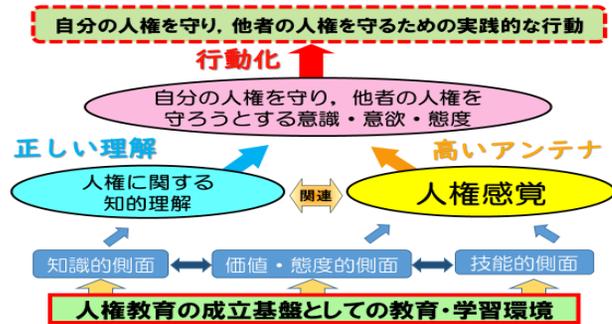
人権教育の目標は

自分を大切に、他の人も大切にしようとする行動がとれる児童生徒の育成

人権感覚とは

人権感覚とは、人権の価値やその重要性にかんがみ、人権が擁護され、実現されている状態を感知して、これを望ましいものと感じ、反対に、これが侵害されている状態を感知して、それを許せないとするような、価値志向的な感覚です。

人権教育を通じて育てたい資質・能力



高いアンテナ(人権感覚(価値・態度的側面/技能的側面))と正しい理解(人権に関する知的理解(知識的側面))を関連付けながら自分の人権を守り他の人の人権を守ろうとする意識・意欲・態度をもつことで行動化:自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践的な行動に繋げることができます。このように見たとき、人権教育は、人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤として、意識、態度、実践的な行動力など様々な資質や能力を育成し、発展させることを目指す総合的な教育であることがわかります。このような人権教育を通じて培われるべき資質・能力については、次の3つの側面(①知識的側面、②価値的・態度的側面及び③技能的側面)から捉えることができます。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を!

現行の学習指導要領では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力の育成を目指して、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められています。

当教育事務所ホームページの、「学校教育一指導に役立つ実践資料」もぜひご活用ください。



【文部科学省ホームページより】

つきましては ぜひ次の項目で授業を振り返ってください。

- 主体的な学びの実現に向けて**
 - 本時で身に付けさせたいこと、めあて、学習活動、振り返りの内容がなっているか。
 - 児童生徒が見通しをもって学習に取り組める手立てを行っているか。
 - 学習後に「何が身に付いたのか」を実感し、生活や次の学習につながる振り返りになっているか。
- 対話的な学びの実現に向けて**
 - 「何を考えさせたいか」など、目的を明確にして話し合いを行っているか。
 - 自分の考えをもった上で話し合いに臨ませているか。
 - 話し合いの目的に応じて、学習形態(ペア、グループ、全体)を工夫しているか。
 - 「比較する」、「分類する」など、話し合いを通じて児童生徒のものの見方や考え方を深めたり、広げたりする手立てを講じているか。
- 深い学びの実現に向けて**
 - 単元全体や一単位時間の中で、どのような見方・考え方を働かせるのか具体的になっているか。
 - 学習したことが日常生活や他教科等の学習に生かせることで、学習に有用感を感じたり、確固たる知識として構造化されたりしているか。

オープンサポート教科フォーラム

令和3年度から3か年計画で実施している「未来の創り手を育成する学力向上プログラム」事業の一環として日置市といちき串木野市26人の先生方で「コアティーチャーネットワークプロジェクト部会」を組織し、諸学力調査における設問の要素を取り入れた授業について協議を重ねてきました。その成果を、オープンサポート教科フォーラムとして学校での授業公開にて還元していきたいと考えています。

各部会ごとに、下記の期日で授業公開を行っていく予定です。管内の先生方にもぜひ御出席いただき、授業づくりについて、いっしょに考えていけたらと思います。

	外国語部会	国語部会	算数・数学部会
期日	11月17日(木)	11月24日(木)	11月29日(火)
場所	湯田小学校	伊作小学校	伊集院小学校

ICT(ロイロノート)

「県指導主事等ICT活用指導力向上プログラム」に係る研修で、ロイロノートの活用について学びました。

- 自分の色々な考えをカードに書き、そのカードを線でつなげ、自分の考えを相手に伝えやすい順番に並べることができる。
- 作ったカードを先生に提出したり、児童生徒同士で交換できたりする。提出したカードを使って発表したり、周りの友人のカードを見たり、比較したりすることで学び合いをすることができる。
- シンキングツールがあり、「考える」パターンを図で表すことができる。繰り返しアイデアから考えをつくり出すことで、思考力を育むことができる。

思考の共有が容易にできるため、児童生徒の学びをサポートしてくれる学習ツールとして有効なものの一つであると感じました。利用することが目的でなく、利用することで児童生徒にどのような学力を付けることができるのかという視点をもって、活用していくことが大切であるとあらためて思いました。

運動好きな児童生徒の育成に向けて

本県の「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進事業が始まり、2年目となりました。

本地区の課題の一つとして、運動に対する2極化が上げられます。児童生徒に「運動・スポーツが好き」と感じさせるためには、まず、教科体育の授業改善が必要です。運動が好きな子、そうでない子が一緒に運動・スポーツに関わる時間に、どのように「楽しさ」を味わわせるかが重要となります。

そのためには、児童生徒自身へ学習課題を明確にもたせ、授業の終末段階において「できた、できそうになった」「ポイントやこつが分かった」など達成感や「友だちに教えてもらった、認めてもらった」などの喜びを得られる場面を設定することが必要です。特に、終末段階におけるまとめと振り返りについては、確実に時間を設定して取り組むことが大切です。

※ 当教育事務所HPに掲載中の資料「体育・保健体育授業づくり」を参考にしてください。

教育論文の募集について

昨年度の教育論文・教育実践記録審査には285点の応募がありました。学校経営、学年・学級経営、教科・領域等、学校の教育課題に応じて、様々な視点から論じられていました。先生方が、日々の授業実践や計画的・継続的な研究を振り返り、まとめることで成果や課題を確認されていることが十分わかるものでした。そして、それらのことが「目標－計画－実践－検証」のサイクルに基づいた指導方法の改善・充実にもつながることを感じせるものでもありました。今年度も、数多くの素晴らしい論文・実践記録に出会えることを楽しみにしています。

- ・形式 教育論文の部：A4判6枚以上10枚以内
教育実践記録の部：A4判4枚程度
- ・期限 令和5年1月10日（火）

地域が育む「かごしまの教育」県民週間

本県では、学校・家庭・地域社会のより一層の連携と協力の下に、県民一人一人が鹿児島県の教育について考える気運を高め、教育の充実と発展を図ろうと、

11月1～7日を地域が育む「かごしまの教育」県民週間とし、今年度もこの週間を中心に、各校が工夫し、新型コロナウイルス感染症対策をとった上で保護者・地域住民への学校開放や自由参観等開かれた学校づくりに取り組みます。

右の絵画は、県民週間ポスター原画コンクールにおいて特選を受賞した作品です。



いちき串木野市立羽島小
5年 元山 源太さん

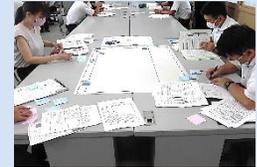
コアスクールプロジェクト

7月12日（火）、串木野西中学校を会場に「令和4年度コアスクールプロジェクト第1回校内研修」を実施しました。このプロジェクトは、授業改善及び授業力の向上を目指した研修等に先進的に取り組み、実践を県下に広げることにより、教員の授業力及び児童生徒の学力向上に資することをねらいとしています。今年度、鹿児島県教育事務所管内では、串木野西中学校がコアスクール、伊集院北中学校と三島硫黄島学園の2校がエリア推進スクールとして指定を受けています。

本プロジェクトで得られた成果等について、今年度も機会をとらえて積極的に紹介していきたいと思っております。



【広瀬准教授による指導】



【研修の様子】

涼風

伝える力

鹿児島教育事務所

主幹兼総務係長 富卓哉

私の趣味の一つは、落語を聞くことで、特に好きな噺が、「猫の皿」という噺である。

ある古美術商が、お茶屋で休憩をしていた時、ご飯を食べているお店の飼い猫に目をやると、ご飯の入った皿が高級な皿であることに気付く。そこで古美術商は、その高級な皿を安く手に入れようと、店主に、「この猫が欲しい」と話しかけ、「最後は：：：という内容の噺である。続きが気になる方は、是非、調べてください。」

人間は、相手とコミュニケーションを取るとき、非言語情報（仕草や表情等の視覚情報と、話し方や声色等の聴覚情報）と言語情報の内容が一致していることが重要だと言われている。

同じ内容の落語でも、語り手によって、頭に浮かぶ情景が多少異なることがあるのは、表情や仕草、口調にそれぞれの個性があり、異なるからであろう。

落語を聞くことは、業務に通ずるところがあり、上司や部下等への報告は、いかに正しい情報をわかりやすく相手へ伝えるか「伝える力」を伸ばす必要があることに気が付けられる。

「伝える力」を伸ばすため、職員研修や講座に落語を取り入れる企業や大学があると聞いたことがある。

私にとって娯楽だけでなく教材でもある落語。これからも様々な噺を聞き、リフレットシユするとともに、自分の「伝える力」を向上させたいものである。